

# 旧魚の町団地について

長崎県土木部住宅課

## 魚の町の歴史

昭和38年、日本大工町の全域と今魚町・酒屋町・紺屋町の各一部が合併し、魚の町となりました。  
昔この町に魚市場があったので今魚町と呼んでおり、おくんちの踊町としては、かなり昔からそれにちなんで川船を奉納していたそうです。

(長崎市のホームページより)

建設当時の酒屋町プレートを探してみよう！



## 魚の町団地建設当時（昭和23年）の住宅事情

◎戦前の長崎市の住宅戸数 約51,000戸

昭和19～20年の三次にわたる強制疎開で、2,050戸減少し、原子爆弾により、18,409戸減少する。

◎戦後、疎開による市外への転出者、海外からの引揚者の復帰により、急激な人口増加が起こり、深刻な住宅不足に陥る（昭和23年住宅調査では、長崎市の1人あたりの畳数は2.64畳で、全国で最低水準）。

◎終戦以来、6年が経った当時でも、壕生活を続けている者、寺院・病院等に居住している者、公園や道路、河川の上を不法に占拠して無許可をもって一夜にしてバラックを建築して住んでいる者がかなりいた。

「住宅建設」長崎市土地住宅課長 酒井勇（『都市計画協会『新都市 長崎国際文化都市 特輯号』、S26.8）



長崎駅前から五島町方面 S30

S30年の長崎のまち

(『長崎戦災復興の栞』、長崎県都市計画課)



S30年代の集合住宅（食寝分離型）

(『蓮根団地 2DK55型』、UR都市機構の資料より)

## 魚の町団地建設に関する新聞記事

魚の町団地（酒屋町団地）の新聞記事を探してみました。

建設資材を確保するところから、敷地の選定、着工、団地の申込み状況や、抽選会の様子などが1つ1つ記事にされており、市民の注目度の高さがわかります。

『資材の見透しつく 小栗縣建築課長語る』

縣下千六百二戸の●住宅営團簡易住宅の拂下げ価格値引き陳情ならびに庶民住宅用鉄筋アパートの資材確保のため上京中の小栗縣建築課長は十日帰任、住の悩みに次のような明るい朗報をもたらした（略）

◇長崎市に建設豫定の鉄筋アパートもセメントが今月末から入荷の見込みで、市当局と話し合いのうえ敷地を選定、早急に着工の運びとなろう、なお公共団体以外の一般私人でもアパート建設の希望があれば縣へ申込んでいただきたい、個人投資は金融難から多少困難と思うが、商店希望者が寄り合つて投資すればうまくゆくと考える、値段についても木造家屋と余り変りはない

【S23.5.12長崎民友新聞】

『縣営に本決り 長崎市の中央に・七月頃着工』

鉄筋アパート 住宅難に悩み抜く長崎市民に縣の放つ住宅復興のホームラン…これは杉山知事の狙う縣営事業の振興と住宅難救済の一環として考案されたもので、時代の薄幸児サラリーマン向四階建の鉄筋コンクリートアパートを長崎市の中央部に建設しようというもので いままで縣営か市営かはつきりしなかつたのが、十八日縣営に方針決定をみたものである、この建物は火事地震おかまなしの耐火耐震理想的な建物で、一棟二十四世帯を収容、間取りは八畳、六畳、玄関、台所、水洗式便所、奥行三尺の押入れおまけにつくりつけの下駄箱、道具入れなど近代的な簡易生活に打つつけの最新型 総工費は土地の買収費整地費などを含めて七百四十万円で、建築資材もすでに手配済み、目下長崎市の中央部の敷地を選定中で、土地と豫算の関係から着工は七月ごろになる見込みだが、年末までには完成の豫定という【S23.5.19長崎民友新聞】

『長崎市酒屋町に敷地を選定』

縣営鉄筋アパート 縣では二十四世帯を収容する縣営鉄筋アパート一棟の建設計画をたて、敷地を選定中であつたが、このほど長崎市酒屋町電車停留所附近の空地（約三百五十坪）を候補地に選定、目下地主関係者と折しよう中である、着工は豫算の議會通過を待つて七月一日ごろになる見込みで、工期は半年の豫定、なお縣ではあと二棟を建設すべく計画を練つている

【S23.5.30長崎民友新聞】

『縣営アパート 12日着工、來春完成』

縣営鉄筋コンクリートのアパート一むねは、佐世保市三浦組の手で長崎市酒屋町の敷地で十二日着工された。完成は來春の豫定 なお二次計画の同アパートは敷地の都合で蛸茶屋横の空地に敷地を決定したので、今月末入札して建築業者が決り次第着工する

【S23.10.13長崎日日新聞】

『五十戸に申込千件を突破 長崎市縣営アパートの申込締切り』

長崎市の縣営アパート（酒屋町、中川町）入居受付は二十日で締切られたが、両方合わせて約五十戸の受付に、申込み数は千件を突破。相も変らぬ住宅難を物語つている。なおこの公開抽選は來月早々縣議會議場でひかれる。

【S24.6.21長崎民友新聞】

『おゝ！家が當つた 固唾をのむ縣営アパートの抽選会』

待望の長崎市酒屋町、中川町縣営アパート入居者の公開抽せんは、八日午後三時から市内本大工町市民運動場で挙行、運命の入居者が発表された、なお酒屋町は管理人一、住宅くじ一等当選者一、計優先入居者二名、中川町は土地提供者四、管理一、計五名を縣営住宅入居者選定委員会で決定したので、両方併せて四一世帯（酒屋町二十二、中川町十九世帯）の抽せんが行われたわけ当選番号は次の通り

中川町アパート 一六九、… 酒屋町アパート 二五…

【S24.7.9長崎民友新聞】



抽選会の様子



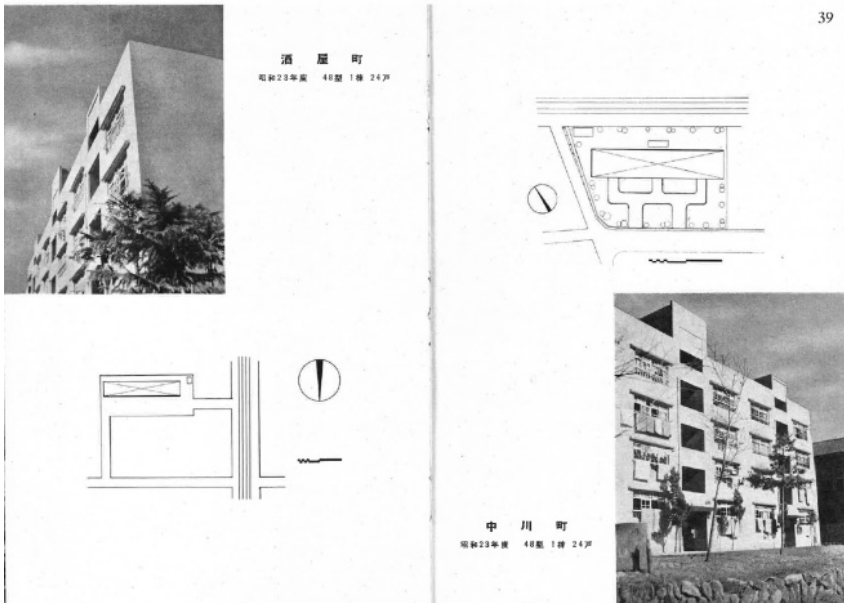
『晴れて入居は8月1日から 酒屋町縣営アパート落成』さきに抽せんて入居者を決定した酒屋町中川町縣営アパート中酒屋町アパートは四階建のスマートな姿が美しくこのほど落成した。ガス、水道付きで八畳、六畳の文化住宅、開放の日を待ちわびる幸福の廿四世帯は八月一日から入居できるとのこと

【S24.7.28長崎日日新聞】

完成した魚の町団地（酒屋町団地）



# 魚の町団地（酒屋町団地）と中川町団地

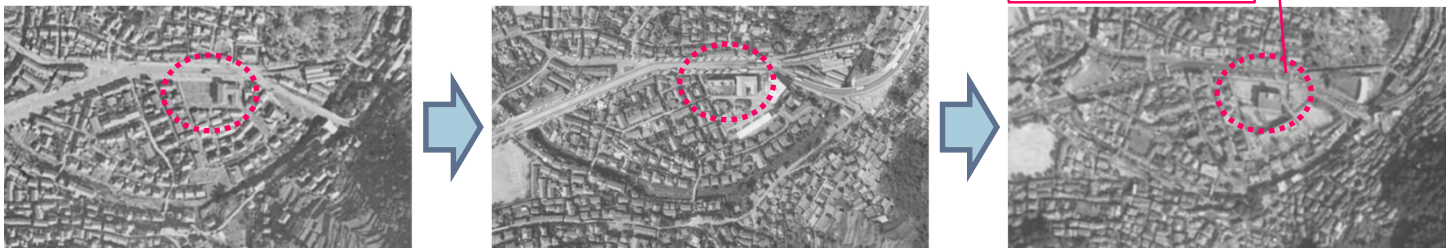


新聞記事からもわかるように、魚の町団地には同じ時期に建設された、中川町団地と呼ばれる双子の団地がありました。

場所は蛍茶屋電停の近くです（現在の山口整形外科があるところ）。

現在は残っていませんが、同じ「48型」なので、外観はもちろん、間取りや内装も魚の町団地とよく似ていたかもしれません！

左：『長崎県住宅事情（1945～1952）』  
下：国土地理院の空中写真



中川町団地の敷地は更地の状態です (S23.1.13)

中川町団地が建っています (S37.5.29)

中川町団地がなくなり、道路が広がるようです (S57.10.26)

## 作家カズオ・イシグロと魚の町団地？

2017年にノーベル文学賞を受賞した作家カズオ・イシグロさん  
をみなさんをご存知でしょうか。

カズオ・イシグロさんは、1954年に長崎市新中川町で生まれ、  
1960年にイギリスへ渡るまで長崎に住んでいました。

作品の中には、団地が描写されている場面があります。5歳まで暮らした日本の原風景として、カズオ・イシグロさんの中には団地が息づいているのかもしれませんが。それはもしかすると、中川町団地や魚の町団地だったのかも…？

「すでに復興が始まってやがて、それぞれが四十世帯くらいを収容できるコンクリート住宅が、四つ建った。[...]どのアパートの部屋もそっくりだった。床は畳で、風呂場と台所は洋式。狭いものだから、夏の数か月は暑くてやや苦勞しただけでも、住人たちはだいたい満足しているようだった。」（『遠い山なみの光』）

「太郎と紀子が住んでいる団地の一室は、四階の小さな二間の間取りで、天井は低く、隣近所の物音が入ってくる。[...]紀子はこの新居を大いに自慢しており、絶えずそのモダンさをひけらかす。たしかに見たところ、掃除はとても簡単そうだし、通風も非常に能率的である。紀子は、特にこの団地はすべてキッチン、バス、トイレが洋式だから、実家の設備とは比べものにならぬくらい便利で使いやすい、と言い張っている。」（『浮世の画家』）



(2020.7.17長崎新聞 古瀬小百合記者)

主な作品：『遠い山なみの光』（長崎が舞台）、『日の名残り』、『わたしを離さないで』 など  
参考文献：論文「カズオ・イシグロと日本の巨匠」（武富利亜氏）